

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
交付規程

令和2年5月22日 低技組発第20052201号
一般社団法人 低炭素エネルギー技術事業組合 制定

(通則)

第1条 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)の交付については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号。以下「適正化法」という。)、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令(昭和30年政令第255号。以下「適正化法施行令」という。)、その他の法令、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(CO2削減ポテンシャル診断推進事業)交付要綱(平成28年4月1日付け環地温発第16040138号。以下「交付要綱」という。)及びCO2削減ポテンシャル診断推進事業実施要領(平成28年4月1日付け環地温発第16040144号。以下「実施要領」という。)の規定(以下「法令等」という。)によるほか、この規程の定めるところによる。

(交付の目的)

第2条 この規程は、実施要領の規定に基づき、一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合(以下「組合」という。)が行う間接補助金(以下「補助金」という。)を交付する事業の手続等を定め、もってその業務の適正かつ確実な実施を図り、交付要綱第2条の目的の達成に資することを目的とする。

(交付の対象)

第3条 組合は、前条の目的を達成するため、実施要領第3の(1)に規定する事業(以下「補助事業」という。)に要する経費のうち、補助金の交付の対象として別表第1の第2欄において組合が認める経費(以下「補助対象経費」という。)について、環境大臣(以下「大臣」という。)からの交付の決定額の範囲内において、補助金を交付するものとする。

2 前項の補助事業に係る補助金の交付を申請できる者は、別紙の2に規定する者とする。

3 第1項に規定する補助事業を2者以上の事業者が共同で実施する場合には、共同で申請するものとし、その代表者を補助金の交付の対象者とする。なお、代表者は、補助事業を自ら行い、かつ、当該補助事業により財産を取得する場合はその財産を取得する者に限る。また、この場合において、代表者を代表事業者、それ以外の事業者を共同事業者という。代表事業者は、補助事業を実施に係る全ての責を負うものとし、共同事業者が法令等若しくは本規程に違反した場合についても代表事業者がその責を負うものとする。

4 他の法令及び予算に基づく補助金等の交付を受けて行われる事業については、

交付の対象としない。

- 5 補助事業の実施に関する要件その他の必要な事項は、別紙に定めるとおりとする。

(交付額の算定方法)

第4条 この補助金の交付額は、次に掲げる方法により算出するものとする。

- 一 総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額を算出する。
 - 二 別表第1の第2欄に掲げる補助対象経費と第3欄に掲げる基準額とを比較して少ない方の額を選定する。
 - 三 一により算出された額と二で選定された額とを比較して少ない方の額に、別表第1の第4欄に掲げる補助率を乗じて得た額を交付額とする。ただし、算出された額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。
- 2 交付額の算出に当たっては、当該補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税相当額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）の規定により仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額及び当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）の規定による地方消費税の税率を乗じて得た金額の合計額に補助率を乗じて得た金額をいう。以下「消費税等仕入控除税額」という。）を減額して算出しなければならない。ただし、算出時において消費税等仕入控除税額が明らかでないものについては、この限りでない。

(交付の申請)

第5条 補助金の交付を受けようとする者（共同で申請する場合は代表事業者を指す。以下「申請者」という。）は、第7条にて定める電子申請により交付申請を組合に提出しなければならない。ただし、第7条第3項に基づく申請の場合は、様式第1による交付申請書を提出するものとする。

(変更交付申請)

第6条 補助金の交付の決定を受けた者（以下「補助事業者」という。）は、補助金の交付決定後の事情の変更により申請の内容を変更して補助金の額の変更申請を行う場合には、速やかに第7条にて定める電子申請により変更交付申請を組合に提出しなければならない。ただし、第7条第3項に基づく申請の場合は、様式第2による変更交付申請書を提出するものとする。

(電子申請等)

第7条 申請者又は補助事業者は、原則として、第5条の規定に基づく交付の申請、第6条の規定に基づく変更交付の申請、第10条に基づく申請の取下げ、第9条第三号の規定に基づく計画変更の申請、第9条第五号の規定に基づく事業遅延報告、第12条の規定に基づく完了実績報告及び第16条の規定に基づく事業報告書については、電磁的方

法（適正化法第26条の4第1項の規定に準じて組合が定めるものをいう。以下、同じ。）により行うこととする。

- 2 組合は、第8条の規定に基づく交付の決定、第9条第五号の規定に基づく指示、第13条第1項の規定に基づく通知、第13条第2項の規定に基づく返還命令及び第15条第1項の規定に基づく解除について、当該通知を電磁的方法により行うこととする。
- 3 組合、申請者及び補助事業者は、原則として、前2項に定めるとおり電磁的方法により手続きを行うこととするが、電磁的方法による手続きを行うことができないとき又は電磁的記録（適正化法第26条の3の規定に準じて組合が定めるものをいう。以下、同じ。）を提出できないときは、交付規程に定める様式による書面の提出又は組合が定める方法で手続きを行うことができる。

（交付の決定）

第8条 組合は、第5条の規定による交付申請書又は第6条の規定による変更交付申請書の提出があった場合には、当該申請書の内容を審査し、補助金を交付すべきもの又は交付の決定の内容を変更すべきものと認めるときは、交付決定又は変更交付決定を行い、電磁的方法により申請者に通知するものとする。ただし、第7条第3項に基づく申請の場合は、様式第3による交付決定通知書又は様式第4による変更交付決定通知書を申請者に送付するものとする。

- 2 第5条の規定による交付申請書又は第6条の規定による変更交付申請書が到達してから、当該申請に係る前項による交付の決定を行うまでに通常要すべき標準的な期間は、30日とする。
- 3 組合は、第4条第2項ただし書による交付額の算定により交付の申請がなされたものについては、補助金に係る消費税等仕入控除税額について、補助金の額の確定又は消費税及び地方消費税の申告後において精算減額又は返還を行うこととする旨の条件を付して交付の決定を行うものとする。

（交付の条件）

第9条 補助金の交付の決定には、次の条件が付されるものとする。

- 一 補助事業の一部を第三者に委託し、又は第三者と共同して実施する場合は、実施に関する契約を締結しなければならない。
- 二 補助事業を遂行するため、売買、請負その他の契約をする場合は、一般の競争に付さなければならない。ただし、補助事業の運営上、一般の競争に付することが困難又は不相当である場合は、指名競争に付し、又は随意契約によることができる。
- 三 補助事業の内容を変更しようとする場合は、あらかじめ様式第5による計画変更承認申請書を組合に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、軽微な変更である場合を除く。なお、補助金の額に変更を伴う場合は、第6条に定める手続によるものとする。
- 四 補助事業の全部若しくは一部を中止し、又は廃止しようとする場合は、様式第6による中止（廃止）承認申請書を組合に提出して承認を受けなければならない。

ない。

- 五 補助事業が予定の期間内に完了しないと見込まれる場合又は補助事業の遂行が困難となった場合には、速やかに様式第7による遅延報告書を組合に提出して、その指示を受けなければならない。ただし、変更後の完了予定期日が当初の完了予定期日の属する年度を超えない場合で、かつ、当初の完了予定期日後1ヶ月以内である場合はこの限りでない。
- 六 補助事業の遂行及び収支の状況について、組合の要求があったときは速やかに様式第8による遂行状況報告書を組合に提出しなければならない。
- 七 補助金の額の確定が行われるまでの間において、合併・分割等により補助事業者の名称又は住所の変更が生じたときは、遅滞なく組合に報告しなければならない。
- 八 補助事業の経費については、帳簿及び全ての証拠書類を備え、他の経理と明確に区分して経理し、常にその収支の状況を明らかにしておくとともに、これらの帳簿及び証拠書類を補助事業の完了（中止又は廃止の承認を受けた場合を含む。）の日の属する年度の終了後5年間、組合の要求があったときは、いつでも閲覧に供せるよう保存しておかななければならない。
- 九 組合は、補助事業の適正かつ円滑な実施を確保するために必要があると認めるときは、補助事業者に対して、補助事業の経理について調査し、若しくは指導し、又は報告を求めることができる。
- 十 補助事業完了後に、消費税及び地方消費税の申告により補助金に係る消費税等仕入控除税額が確定した場合には、様式第9による消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書により速やかに組合に報告しなければならない。ただし、当該消費税等仕入控除税額を減額して実績報告を行った場合には、この限りでない。
- 十一 組合は、前号の報告があった場合には、当該消費税等仕入控除税額の全部又は一部の返還を命ずるものとする。当該返還の期限は、その命令のなされた日から20日以内とし、期限内に納付がない場合は、未納に係る金額に対して、その未納に係る日数に応じて年利10.95パーセントの割合で計算した延滞金を徴するものとする。
- 十二 補助事業者は、補助事業の完了後、環境省が実施する「エネルギー起源 CO2 排出削減技術評価・検証事業」において、二酸化炭素削減効果その他補助事業の成果を検証するために必要な情報について、環境省（環境省から委託を受けた民間事業者を含む。）から調査の要請があった場合には、当該情報を提供しなければならない。

（申請の取下げ）

第10条 申請者は、第8条第1項の交付の決定の通知を受けた場合において、交付の決定の内容又はこれに付された条件に対して不服があり、申請を取り下げようとするときは、当該通知を受けた日から起算して15日以内に電磁的方法により組合に交付申請の取下げを申し出なければならない。ただし、第7条第3項に基づく申請の場合は、書面をもって取下げを申し出るものとする。

(補助事業の遂行の命令等)

第11条 組合は、第9条第六号の規定による報告書及び第2項の規定による報告書並びに職員の立入検査等の結果に基づき、補助事業が法令等、本規程、交付の決定の内容又はこれに付した条件に従って遂行されていないと認められるときは、補助事業者に対し、これらに従って補助事業を遂行すべきことを指導することができる。

2 大臣又は組合は、補助金交付及び補助事業の適正を期するため必要があるときは、補助事業者に対して報告を求め、又はその職員に補助事業者の事業場に立ち入り、帳簿書類その他の物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることができるものとする。

(実績報告書)

第12条 補助事業者は、補助事業が完了（中止又は廃止の承認を受けた場合を含む。）したときは、その日から起算して30日を経過した日又は補助事業の完了した日の属する年度の1月22日のいずれか早い日までに電磁的方法により完了実績報告書を組合に提出しなければならない。ただし、第7条第3項に基づく申請の場合は、様式第10による完了実績報告書を提出するものとする。

2 補助事業の実施期間内において、国の会計年度（毎年4月1日から翌年の3月31日までの期間）が終了したときは、翌年度4月9日までに電磁的方法により年度終了実績報告書を組合に提出しなければならない。ただし、第7条第3項に基づく申請の場合は、様式第11による年度終了実績報告書を提出するものとする。

3 補助事業者は、第1項又は第2項の実績報告を行うに当たって、第4条第2項ただし書の規定により交付額を算出した場合において、補助金に係る消費税等仕入控除税額が明らかな場合には、当該消費税等仕入控除税額を減額して報告しなければならない。

(補助金の額の確定等)

第13条 組合は、前条第1項の報告を受けた場合には、報告書等の書類の審査及び必要に応じて現地調査等を行い、その報告に係る補助事業の実施結果が補助金の交付の決定の内容（第9条第三号に基づく承認をした場合は、その承認された内容を含む。）及びこれに付した条件に適合すると認めたときは、交付すべき補助金の額を確定して、電磁的方法により交付確定額を補助事業者へ通知するものとする。ただし、第7条第3項に基づく申請の場合は、様式第12による交付額確定通知書により通知するものとする。

2 組合は、補助事業者に交付すべき補助金の額を確定した場合において、既にその額を超える補助金が交付されているときは、その超える部分の補助金の返還を命ずるものとする。

3 前項の補助金の返還期限は、その命令のなされた日から20日以内（ただし、補助事業者が別紙の2（4）の地方公共団体であって補助金の返還のための予算措置につき議会の承認を必要とする場合で、かつ20日以内の期限により難しい場合には、額の確定通知の日から90日以内で組合の定める日以内とすることができる。）とし、期限内に納付がない場合には、未納に係る金額に対して、その未納に係る日数に応じて年利10.95パーセントの割合で計算した延滞金を徴するものとする。

(補助金の支払)

第14条 補助金は、前条第1項の規定により交付すべき補助金の額を確定した後に支払うものとする。ただし、組合が必要と認める場合においては、概算払をすることができる。

2 補助事業者は、前項の規定により補助金の支払を受けようとするときは、様式第13による精算（概算）払請求書を組合に提出しなければならない。

(交付決定の解除等)

第15条 組合は、第9条第四号による補助事業の全部若しくは一部の中止若しくは廃止の申請があった場合又は次の各号のいずれかに該当する場合には、第8条第1項の交付の決定の全部又は一部を解除することができる。ただし、第四号の場合において、補助事業のうちすでに経過した期間に係る部分については、この限りではない。

一 補助事業者が、法令等若しくは本規程に基づく組合の指示等に従わない場合

二 補助事業者が、補助金を補助事業以外の用途に使用した場合

三 補助事業者が、補助事業に関して不正、怠慢、その他不適当な行為をした場合

四 天災地変その他補助金の交付の決定後に生じた事情の変更により、補助事業の全部又は一部を継続する必要がなくなった場合その他の理由により補助事業を遂行することができない場合（補助事業者の責に帰すべき事情による場合を除く。）

2 組合は、前項の解除を行った場合は、既に当該解除に係る部分に関し補助金が交付されているときは、期限を付して当該補助金の返還を命ずるものとする。

3 前項に基づく補助金の返還については、第13条第3項の規定（ただし書を除く。）を準用する。

(事業報告書の提出)

第16条 補助事業者は、補助事業の完了の日の属する年度の終了後3年間の期間について、年度毎に年度の終了後30日以内に当該補助事業による過去1年間（初年度は、補助事業を完了した日から補助事業の完了の日の属する3月末までの期間を含む。）の二酸化炭素削減効果等について、様式第14による事業報告書を大臣に提出しなければならない。

2 補助事業者は、前項の報告をした場合、その証拠となる書類を当該報告に係る年度の終了後3年間保存しなければならない。

(秘密の保持)

第17条 組合は、申請者及び補助事業者がこの規程に従って組合に提出する各種申請書類及び経理等の証拠書類等については、補助金の交付のための審査及び補助金の額の確定のための検査等、補助事業の遂行に関する一切の処理等を行う範囲でのみ使用するとともに、善良な管理者の注意をもって適切に管理するものとする。

(その他)

第18条 この規程に定めるもののほか、補助金の交付に関するその他必要な事項は、組

合が別に定める。

附 則

この規程は、令和2年5月22日から施行する。

別表第1

1. 補助事業	2. 補助対象経費	3. 基準額	4. 補助率
CO2 削減ポテンシャル 診断推進事業のうち CO2 削減ポテンシャル 診断事業	補助事業を行うために必要 な委託料及びその他必要な 経費で組合が承認した経費	組合が必要と認めた額	10分の9

別紙（第3条関係）

補助事業の実施に関する要件その他の必要な事項について

1 対象事業の要件

- (1) 基準年度（直近年度）における年間CO₂排出量が50トン以上3,000トン未満（電気事業者の代替値ベースで算出）の日本国内の事業所であること。
- (2) 過年度に環境省の「CO₂削減ポテンシャル診断」を受診していないこと。但し、受診のあった同一法人であっても別の事業所であれば応募可とする。
- (3) 直近2期の決算において、連続の債務超過（貸借対照表の「純資産」が2期連続でマイナス）がなく、適切な管理体制及び処理能力を有すること。
- (4) 暴力団排除に関する誓約事項に誓約できるものであること。

2 補助金の交付を申請できる者

本事業について補助金の交付を申請できる者は、次に掲げる者とする。

- (1) 民間企業
- (2) 独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第2条第1項に規定する独立行政法人
- (3) 一般社団法人・一般財団法人及び公益社団法人・公益財団法人
- (4) 都道府県、市町村、特別区及び地方公共団体の組合
- (5) 法律により直接設立された法人
- (6) その他環境大臣の承認を経て組合が認める者

3 二酸化炭素削減量の把握及び情報提供

補助事業者は、事業の実施による二酸化炭素排出削減量を把握し、この規程及び組合の求めに応じて、事業の実施に係るこれらの情報を提供すること。

交付規程様式等

- 様式第1 交付申請書（第5条関係）
 - 別紙1 実施計画書
 - 別紙2 経費内訳
- 様式第2 変更交付申請書（第6条関係）
- 様式第3 交付決定通知書（第8条関係）
- 様式第4 変更交付決定通知書（第8条関係）
- 様式第5 計画変更承認申請書（第9条関係）
- 様式第6 中止（廃止）承認申請書（第9条関係）
- 様式第7 遅延報告書（第9条関係）
- 様式第8 遂行状況報告書（第9条関係）
- 様式第9 消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書（第9条関係）
- 様式第10 完了実績報告書（第12条関係）
 - 別紙1 実施報告書
 - 別紙2 経費所要額精算調書
- 様式第11 年度終了実績報告書（第12条関係）
- 様式第12 交付額確定通知書（第13条関係）
- 様式第13 精算（概算）払請求書（第14条関係）
- 様式第14 事業報告書（第16条関係）

様式第1（第5条関係）

番 号
年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代表理事 俣野 実 殿

申請者 住 所

氏名又は名称
代表者の職・氏名

印

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
交付申請書

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）交付規程（以下「交付規程」という。）第5条の規定により上記補助金の交付について下記のとおり申請します。

なお、交付決定を受けて補助事業を実施する際には、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）及び交付規程の定めるところに従います。

記

- 補助事業の目的及び内容
別紙1 実施計画書のとおり
- 補助金交付申請額 円
(うち消費税及び地方消費税相当額 円)
- 補助事業に要する経費
別紙2 経費内訳のとおり
- 補助事業の開始及び完了予定年月日
交付決定の日 ～ 年 月 日
- その他参考資料

- 注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で申請する場合は、代表事業者が申請すること。
- 2 「5 その他参考資料」として、申請者が地方公共団体以外の者である場合は、申請者の組織概要、経理状況説明書（直近の2決算期に関する貸借対照表及び損益計算書（申請時に、法人の設立から1会計年度を経過していない場合には、申請年度の事業計画及び収支予算、法人の設立から1会計年度を経過し、かつ、2会計年度を経過していない場合には、直近の1決算期に関する貸借対照表及び損益計算書））及び定款（申請者が個人企業の場合は、印鑑証明書の原本及び住民票の写し（いずれも発行後3ヶ月以内のもの））を添付すること（申請者が、法律に基づき設立の認可等を行う行政機関から、その認可等を受け、又は当該行政機関の合議制の機関における設立の認可等が適当である旨の文書を受領している者である場合は、設立の認可等を受け、又は設立の認可等が適当であるとされた法人の事業計画及び収支予算の案並びに定款の案を添付すること。ただし、これらの案が作成されていない場合には、添付を要しない。）。また、地方公共団体が申請する場合は、申請年度の子算書を添付すること。
 - 3 別紙1又は別紙2において事業ごとに求めている補助事業に関する見積書・各種計算書等を添付すること。

別紙1

C02削減ポテンシャル診断推進事業のうちC02削減ポテンシャル診断事業実施計画書

事業者	法人	法人番号	
		法人名	
		所在地	
	事業実施責任者	所属	
		役職	
		氏名	
	事務連絡先	法人名・所属	
		役職	
		氏名	
		勤務先住所	
T E L			
F A X			
	E - m a i l		
受診事業所	法人番号 ^{注1}		
	事業所名		
年間CO2排出量	t-CO2 (平成 年度)		
診断機関名			
副診断機関名 ^{注2}			
事業期間	交付決定日 ~ 年 月 日		
事業実施のスケジュール ^{注3}	①診断機関との事前打合せ		
	②現地調査		
	③計測器設置		
	④報告会の実施		
	⑤診断機関からの請求書受領		
	⑥組合への完了実績報告(令和3年1月22日まで)		

注 1 法人と事業所で法人番号が異なる場合は記入してください。

2 診断を共同実施で行う場合は副診断機関名を記入してください。

3 事業実施のスケジュールは、表内記入例に従い記入してください。

別紙 2

CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業に要する
経費内訳 消費税免税事業者に該当する

所要経費	(1) 総事業費	(2) 寄付金その他の収入	(3) 差引額 (1) - (2)	(4) 補助対象経費 支出予定額
		円	0 円	0 円
所要経費	(5) 基準額	(6) 選定額 (4) と (5) を比較して 少ない方の額	(7) 補助基本額 (3) と (6) を比較して少 ない方の額	(8) 補助金所要額 (7) × 9/10 の額 (ただし、 1,000円未満切捨て)
		円	0 円	0 円
補助対象経費支出予定額内訳				
経費区 分・費目	金 額	積 算 内 訳		
人件費	0 円	現地調査	×	(人・時) = 0
	0 円	計測器設置・撤去	×	(人・時) = 0
	0 円	データ分析・報告書作成	×	(人・時) = 0
	0 円	報告会	×	(人・時) = 0
人件費計	0 円			
業務費	0 円		×	= 0
	0 円		×	= 0
	0 円		×	= 0
	0 円		×	= 0
	0 円		×	= 0
	0 円		×	= 0
業務費計	0 円			
	0 円		×	= 0
	0 円		×	= 0
計	0 円			
	0 円			
合 計	0 円			

- 注 1 本内訳に、見積書又は計算書等を添付してください。
- 2 金額は原則として消費税抜きの金額で記入してください。
ただし、消費税免税事業者として申請される事業所は、消費税込みで記入してください。
消費税免税事業者については公募要領を参照してください。
- 3 「所要経費」の(1)～(8)については、下記に従って記入してください。
(1): 診断機関からの見積書と同一額を記入してください。
(2): 本事業について、寄付金その他収入がある場合は記入してください。

(3) : (1) - (2)

(4) : 本事業に係る経費以外が含まれる場合はその金額を除外して記入してください。

(5) : 交付申請書別添3で選択した上限額を記入してください。

(6) : (4)と(5)を比較して少ない方の額を記入してください。

(7) : (3)と(6)を比較して少ない方の額を記入してください。

(8) : (7) × 9/10の額を記入してください。ただし、1,000円未満は切り捨ててください。

4 「補助対象経費支出予定額内訳」の合計額は「所要経費」の(4)と同額です。

5 消費税免税事業者として申請する場合は、「消費税免税事業者に関する確認書」を添付してください。

様式第 2 (第 6 条関係)

番 号
年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代表理事 俣野 実 殿

補助事業者 住 所

氏名又は名称

代表者の職・氏名

印

令和 2 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
変更交付申請書

年 月 日付け低技組発第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 (CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業) を下記のとおり変更したいので、令和 2 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 (CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業) 交付規程 (以下「交付規程」という。) 第 6 条の規定により関係書類を添えて申請します。

なお、変更交付決定を受けて補助事業を実施する際には、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律 (昭和 30 年法律第 179 号)、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令 (昭和 30 年政令第 255 号) 及び交付規程の定めるところに従います。

記

1 補助変更申請額

2 変更内容

3 変更理由

(注) 具体的に記載する。

注 1 規程第 3 条第 3 項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が申請すること。

2 1 の金額欄の上部に () 書きで当初交付決定額を記載する。

3 添付書類は、様式第 1 のそれぞれに準じて変更部分について作成することとし、別紙 2 については、変更前の金額を上段に () 書きし、変更後の金額を下段に記載すること。

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
交付決定通知書

補助事業者 殿

年 月 日付け 第 号で交付申請のあった令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）については、令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）交付規程（令和2年5月22日低技組発第20052201号。以下「交付規程」という。）第8条第1項の規定により、下記のとおり交付することを決定したので、通知する。

交付決定日 年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代表理事 俣野 実 印

記

- 1 補助金の交付の対象となる事業及びその内容は、年 月 日付け 第 号交付申請書のとおりである。
- 2 補助基本額及び補助金の額は次のとおりである。ただし、事業の内容を変更する場合において、補助基本額又は補助金の額が変更される場合は、別に通知するところによる。
補助基本額 金 円 補助金の額 金 円
- 3 事業に要する経費の区分ごとの配分及びこれに対応する補助金の額は、年 月 日付け 第 号交付申請書記載のとおりである。
- 4 事業内容の変更等特段の事情がない限り、交付を行う補助金の額は、この交付決定額を上限とする。
- 5 補助事業者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業）交付要綱（平成28年4月1日環地温発第16040138号）、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業）実施要領（平成28年4月1日環地温発第16040144号）及び交付規程に従わなければならない。
- 6 この交付決定に対し不服があるとき、申請の取り下げをすることができる期限は交付決定の日から15日以内とする。
- 7 補助事業における仕入れに係る消費税等については、交付規程第4条第2項ただし書の定めるところにより算定されている場合は、補助金の額の確定又は消費税の申告後において精算減額又は返還を行うこととする。

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
変更交付決定通知書

補助事業者 殿

年 月 日付け 第 号で変更交付申請のあった令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）については、令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）交付規程（令和2年5月22日低技組発第20052201号。以下「交付規程」という。）第8条第1項の規定により、年 月 日付け低技組発第 号で交付決定した内容を下記のとおり変更することを決定したので通知する。

変更交付決定日 年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代表理事 俣野 実 印

記

- 1 補助金の交付の対象となる事業及びその内容は、年 月 日付け 第 号変更交付申請書のとおりである。
- 2 変更後の補助金の額は、次のとおりである。

変更前補助基本額	金	円	変更前補助金の額	金	円
変更後補助基本額	金	円	変更後補助金の額	金	円
増 減 額	金	円	増 減 額	金	円
- 3 事業に要する経費の区分ごとの配分及びこれに対応する変更後の補助金の額は、年 月 日付け 第 号変更交付申請書記載のとおりである。
- 4 補助事業者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業）交付要綱（平成28年4月1日環地温発第16040138号）、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業）実施要領（平成28年4月1日環地温発第16040144号）及び交付規程に従わなければならない。
- 5 この変更交付決定に対し不服があるとき、申請の取り下げをすることのできる期限は変更交付決定の日から15日以内とする。
- 6 補助事業における仕入れに係る消費税等については、交付規程第4条第2項ただし書の定めるところにより算定されている場合は、補助金の額の確定又は消費税の申告後において精算減額又は返還を行うこととする。

様式第 5 (第 9 条関係)

番 号
年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代表理事 俣野 実 殿

補助事業者 住 所

氏名又は名称

代表者の職・氏名

印

令和 2 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
計画変更承認申請書

年 月 日付け低技組発第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 (CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業) の計画を下記のとおり変更したいので、令和 2 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 (CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業) 交付規程 (以下「交付規程」という。) 第 9 条第三号の規定により関係書類を添えて申請します。

なお、計画変更の承認を受けて補助事業を実施する際には、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律 (昭和 3 0 年法律第 1 7 9 号)、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令 (昭和 3 0 年政令第 2 5 5 号) 及び交付規程の定めるところに従います。

記

- 1 変更の内容
- 2 変更を必要とする理由
- 3 変更が補助事業に及ぼす影響

注 1 規程第 3 条第 3 項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が申請すること。

2 事業の内容を変更する場合にあつては、様式第 1 の別紙 1 に変更後の内容を記載して添付すること。

3 経費の配分を変更する場合にあつては、様式第 1 の別紙 2 に変更前の金額を上段に () 書きし、変更後の金額を下段に記載して添付すること。

様式第6（第9条関係）

番 号
年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代表理事 俣野 実 殿

補助事業者 住 所

氏名又は名称

代表者の職・氏名

印

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
中止（廃止）承認申請書

年 月 日付け低技組発第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）を下記のとおり中止（廃止）したいので、令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）交付規程第9条第四号の規定により関係書類を添えて申請します。

記

- 1 中止（廃止）を必要とする理由
- 2 中止（廃止）の予定年月日
- 3 中止（廃止）までに実施した事業内容
- 4 中止（廃止）が補助事業に及ぼす影響
- 5 中止（廃止）後の措置

注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が申請すること。

- 2 中止（廃止）までに実施した事業の内容については、様式第1の別紙1を使用し記載するとともに、様式第1の別紙2に交付決定額を上段に（ ）書きし、中止（廃止）時の実施見込額を下段に記載した書類を添付すること。

様式第7（第9条関係）

番 号
年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代表理事 俣野 実 殿

補助事業者 住 所

氏名又は名称

代表者の職・氏名

印

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
遅延報告書

年 月 日付け低技組発第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）の遅延について、令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）交付規程第9条第五号の規定により下記のとおり指示を求めます。

記

- 1 遅延の原因及び内容
- 2 遅延に係る金額
- 3 遅延に対して採った措置
- 4 遅延等が補助事業に及ぼす影響
- 5 補助事業の実施予定及び完了予定年月日

注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が報告すること。

- 2 事業の進捗状況を示した工程表を、当初と変更後を対比できるように作成し添付すること。

様式第8（第9条関係）

番 号
年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代表理事 俣野 実 殿

補助事業者 住 所

氏名又は名称
代表者の職・氏名

印

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
遂行状況報告書

年 月 日付け低技組発第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）の遂行状況について、令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）交付規程第9条第六号の規定により下記のとおり報告します。

記

経費の区分	補助対象経費(円)	実施額(円)	遂行状況
計			

注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が報告すること。

様式第9（第9条関係）

番 号
年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代表理事 俣野 実 殿

補助事業者 住 所

氏名又は名称
代表者の職・氏名

印

令和2年度消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書

年 月 日付け低技組発第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）について、令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）交付規程第9条第十号の規定に基づき下記のとおり報告します。

記

- 1 補助金額（規程第13条第1項による額の確定額）
金 円
- 2 消費税及び地方消費税の申告により確定した消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額
金 円

注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が報告すること。

2 別紙として積算の内容を添付すること。

番 号
年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代表理事 俣野 実 殿

補助事業者 住 所

氏名又は名称
代表者の職・氏名

印

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
完了実績報告書

年 月 日付け低技組発第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）を完了（中止・廃止）しましたので、令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）交付規程第12条第1項の規定に基づき下記のとおり報告します。

記

- 1 補助金の交付決定額及び交付決定年月日
金 円（ 年 月 日 低技組発第 号）
（うち消費税及び地方消費税相当額 円）
- 2 補助事業の実施状況
別紙1 実施報告書のとおり
- 3 補助金の経費収支実績
別紙2 経費所要額精算調書のとおり
- 4 補助事業の実施期間
年 月 日 ～ 年 月 日
- 5 添付資料
(1) 診断結果報告書
(2) 補助事業実施に関する契約書
(3) その他参考資料（作業日報等含む。）

注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が報告すること。

別紙1

CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業実施報告書

事業者	法人	法人番号	
		法人名	
		所在地	
	事業実施責任者	所属	
		役職	
		氏名	
	事務連絡先	法人名・所属	
		役職	
		氏名	
		勤務先住所	
T E L			
F A X			
	E - m a i l		
受診事業所	法人番号 ^{注2}		
	事業所名		
年間CO2排出量	t-CO2 (平成 年度)		
診断機関名			
副診断機関名 ^{注3}			
事業期間	交付決定日(令和2年 月 日) ~ 年 月 日		
事業実施のスケジュール ^{注4}	①診断機関との事前打合せ		
	②現地調査		
	③計測器設置		
	④報告会の実施		
	⑤診断機関からの請求書受領		
	⑥組合への完了実績報告(令和3年1月22日まで)		

注 1 交付申請書に添付した書類に変更がある場合、本報告書に、変更後の書類を添付してください。

2 法人と事業所で法人番号が異なる場合は記入してください。

3 診断を共同実施で行った場合は副診断機関名を記入してください。

4 事業実施のスケジュールは、表内記入例に従い実施日を記入してください。

5 報告会では診断結果報告書と診断結果報告書確認証を受領してください。

別紙2

C02削減ポテンシャル診断推進事業のうちC02削減ポテンシャル診断事業に要する
経費所要額精算調書

□ 消費税免税事業者に該当する

1. 経費実績額

(1) 総事業費	(2) 寄付金その他の収入	(3) 差引額 (1) - (2)	(4) 補助対象経費 実支出額	(5) 基準額
円	円	円	円	円
(6) 選定額 (4)と(5)を比較して少ない方の額	(7) 補助基本額 (3)と(6)を比較して少ない方の額	(8) 補助金所要額 (7)×9/10の額(ただし、1,000未満切捨て)	(9) 補助金交付 決定額	(10) 過不足額 (9) - (8)
円	円	円	円	円

2. 補助対象経費実支出額内訳

経費区分・費目	金額	積算内訳			
人件費	0円	現地調査		×	(時間) = 0
	0円	計測器設置・撤去		×	(時間) = 0
	0円	データ分析・報告書作成		×	(時間) = 0
	0円	報告会		×	(時間) = 0
人件費計	0円				
業務費	0円			×	= 0
	0円			×	= 0
	0円			×	= 0
	0円			×	= 0
	0円			×	= 0
	0円			×	= 0
業務費計	0円				
	0円			×	= 0
	0円			×	= 0
合計	0円				

- 注 1 本調書に、請求書、領収書又は計算書等を添付してください。
- 2 金額は原則として消費税抜きの金額で記入してください。
ただし、消費税免税事業者として申請される事業所は、消費税込みで記入してください。
消費税免税事業者については公募要領を参照してください。
- 3 「1. 経費実績額」の(1)～(10)については下記に従って記入してください。
- (1): 診断機関からの請求額を記入してください。
 - (2): 本事業実施して、寄付金その他収入があった場合は記入してください。
 - (3): (1) - (2)
 - (4): 本事業に係る経費以外が含まれる場合はその金額を除外して記入してください。
 - (5): 診断結果報告書の内容チェック時に判定された金額を記入してください。

(6) : (4)と(5)を比較して少ない方の額を記入してください。

(7) : (3)と(6)を比較して少ない方の額を記入してください。

(8) : (7) \times 9/10の額を記入してください。ただし、1,000円未満は切り捨ててください。

(9) : 組合からの交付決定通知書(様式第3)(変更交付申請を行った場合は変更交付決定通知書(様式第4))に記載されている「補助金の額」を記入してください。

(10) : (9) - (8)

4 「2. 補助対象経費実支出額内訳」の合計額は「1. 経費実績額」の(4)と同額です。

様式第11（第12条関係）

番 号
年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代表理事 俣野 実 殿

補助事業者 住 所

氏名又は名称

代表者の職・氏名

印

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
年度終了実績報告書

年 月 日付け低技組発第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）の令和2年度における実績について、令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）交付規程第12条第2項の規定に基づき下記のとおり報告します。

記

1 補助金の交付決定額及び交付決定年月日
金 円（ 年 月 日 低技組発第 号）
（うち消費税及び地方消費税相当額 円）

2 補助事業の実施状況

* 交付規程第9条第五号の規定に基づき組合の指示を受けた場合は、翌会計年度に行う補助事業に関する計画を含む。

3 補助金の経費所要額実績
別紙のとおり

経費所要額実績

(単位：円)

交付決定の内容		年度内遂行実績		翌年度繰越額	
(1) 補助事業に 要する経費	(2) 交付決定額	(3) 事業費支払 実績額	(4) 補助金受入 額	(5) 補助事業に 要する経費 (1)-(3)	(6) 補助金所要額 (2)-(4)

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
交付額確定通知書

補助事業者

年 月 日付け低技組発第 号で交付決定した二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）については、年 月 日付けの完了実績報告書に基づき、下記のとおり交付額を確定したので、令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）交付規程（令和2年5月22日低技組発第20052201号。以下「交付規程」という。）第13条第1項の規定により通知する。

記

確 定 額 金 円

年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代 表 理 事 俣野 実 印

(超過交付額が生じた場合)

なお、超過交付となった金 円については、交付規程第13条第2項及び第3項の規定により 年 月 日までに返還することを命ずる。

番 号
年 月 日

一般社団法人低炭素エネルギー技術事業組合
代表理事 俣野 実 殿

補助事業者 住 所

氏名又は名称

代表者の職・氏名

印

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
精算(概算)払請求書

年 月 日付け低技組発第 号で交付額確定(交付決定)の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)の精算払(概算払)を受けたいので、令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)交付規程第14条第2項の規定に基づき下記のとおり請求します。

記

1 請求金額 金 円

2 請求金額の内訳

(概算払の場合)

(単位:円)

経費区分	交付決定額 ①	支出費用状況			概算払 受領済額 ⑤	差引請求額 ④-⑤
		実績額 ②	見込額 ③	合計 ④=②+③		
計						

(精算払の場合)

交付決定額	確 定 額 ①	概算払受領済額 ②	差 引 請 求 額 ①-②

3 振込先の金融機関、その支店名、預金の種別、口座番号及び名義

金融機関名							
金融機関名カナ							
支店名							
支店名カナ							
預貯金種別	普通	当座	その他 ()				
口座番号 (右詰め)							
口座名義							
口座名義カナ							

4 概算払を必要とする理由 (概算払の請求をするときに限る。)

注1 規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が請求すること。

番 号
年 月 日

環 境 大 臣 殿

補助事業者 住 所

氏名又は名称
代表者の職・氏名

令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業)
年度事業報告書

年 月 日付け低技組発第 号で交付決定の通知を受けた二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）について、令和2年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（CO2削減ポテンシャル診断推進事業のうちCO2削減ポテンシャル診断事業）交付規程第16条第1項の規定に基づき下記のとおり報告します。

記

- 1 事業実施による二酸化炭素排出削減効果について
 - (1) 年度二酸化炭素排出削減量（実績）
 - (2) 診断結果報告書の活用状況等

注 交付規程第3条第3項の規定に基づき共同で交付申請した場合は、代表事業者が報告すること。